

試料溶液のカプサイシン及びジヒドロカプサイシン（カプサイシンに対する相対保持時間約 1.3）のピーク面積 A_{TC} 及び A_{TD} 並びに標準溶液のカプサイシンのピーク面積 A_s を測定する。

$$\begin{aligned} & \text{総カプサイシンの量 (mg)} \\ &= \text{成分含量測定用カプサイシンの量 (mg)} \\ & \times \frac{A_{TC} + A_{TD}}{A_s} \times 0.08 \end{aligned}$$

試験条件

検出器：紫外吸光光度計（測定波長：281 nm）

カラム：内径 4.6 mm，長さ 25 cm のステンレス管に 5 μm の液体クロマトグラフ用フェニル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：30 °C 付近の一定温度

移動相：薄めたリン酸（1 → 1000）/アセトニトリル混液（3：2）

流量：カプサイシンの保持時間が約 20 分になるように調整する。

システム適合性

システムの性能：成分含量測定用カプサイシン 1 mg 及びノニル酸ワニルアミド 1 mg をメタノールに溶かして 50 mL とする。この液 20 μL につき，上記の条件で操作するとき，ノニル酸ワニルアミド，カプサイシンの順に溶出し，その分離度は 1.5 以上である。

システムの再現性：標準溶液 20 μL につき，上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき，カプサイシンのピーク面積の相対標準偏差は 1.5 % 以下である。

トウガラシチンキ

Capsicum Tincture

本品は，総カプサイシン（カプサイシン及びジヒドロカプサイシン）0.010 w/v% 以上を含む。

製法

トウガラシ，中切	100 g
エタノール	適量
全量	1000 mL

以上をとり，チンキ剤の製法により製する。

性状 本品は黄赤色の液で，味はやくように辛い。

比重 d_{20}^{20} ：約 0.82

確認試験 本品を試料溶液とし，「トウガラシ」の確認試験を準用する。ただし，スポット量は 20 μL とする。

アルコール数 9.7 以上（第 2 法）。

成分含量測定法 本品 2 mL を正確に量り，メタノールを加えて正確に 20 mL とし，試料溶液とする。別に成分含量測定用カプサイシンをデシケーター（減圧，酸化リン（V），40 °C）で 5 時間乾燥し，その約 0.01 g を精密に量り，メタノールに溶かして正確に 50 mL とする。この液 2 mL を正確に量り，メタノールを加えて正確に 25 mL とし，標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 20 μL ずつを正確にとり，次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液のカプサイシン及びジヒドロカプサイシン（カプサ

イシンに対する相対保持時間約 1.3）のピーク面積 A_{TC} 及び A_{TD} 並びに標準溶液のカプサイシンのピーク面積 A_s を測定する。

$$\begin{aligned} & \text{総カプサイシンの量 (mg)} \\ &= \text{成分含量測定用カプサイシンの量 (mg)} \\ & \times \frac{A_{TC} + A_{TD}}{A_s} \times 0.032 \end{aligned}$$

試験条件

検出器：紫外吸光光度計（測定波長：281 nm）

カラム：内径 4.6 mm，長さ 25 cm のステンレス管に 5 μm の液体クロマトグラフ用フェニル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：30 °C 付近の一定温度

移動相：薄めたリン酸（1 → 1000）/アセトニトリル混液（3：2）

流量：カプサイシンの保持時間が約 20 分になるように調整する。

システム適合性

システムの性能：成分含量測定用カプサイシン 1 mg 及びノニル酸ワニルアミド 1 mg をメタノールに溶かして 50 mL とする。この液 20 μL につき，上記の条件で操作するとき，ノニル酸ワニルアミド，カプサイシンの順に溶出し，その分離度は 1.5 以上である。

システムの再現性：標準溶液 20 μL につき，上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき，カプサイシンのピーク面積の相対標準偏差は 1.5 % 以下である。

貯法

保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。

トウガラシ・サリチル酸精

Capsicum and Salicylic Acid Spirit

製法

トウガラシチンキ	40 mL
サリチル酸	50 g
液状フェノール	20 mL
ヒマシ油	100 mL
芳香剤	適量
エタノール	適量
全量	1000 mL

以上をとり，酒精剤の製法により製する。

性状 本品は淡褐色の液である。

比重 d_{20}^{20} ：約 0.84

確認試験

（1）本品 10 mL に炭酸水素ナトリウム試液 15 mL 及びジエチルエーテル 10 mL を加えて振り混ぜた後，水層を分取する。この液 1 mL をとり，pH 2.0 の塩酸・塩化カリウム緩衝液を加えて 200 mL とする。この液 5 mL に硝酸鉄（III）九水和物溶液（1 → 200）5 mL を加えるとき，液は赤紫色を呈する（サリチル酸）。

（2）本品 0.5 mL に水 20 mL 及び希塩酸 5 mL を加え，